

Native American 【néitiv əméri:k(ə)n】 **ネイティブ・アメリカン**

St. PaulでBBQの夜。残り火でデザートのマシュマロを焼きながら、シルビアとチャックが、自分たちには、わずかながらNative Americanの血が入っていると語った。



ミネソタ州政府観光局の発行する『Japanese Guide to MINNESOTA 2002/2003』を開いてみる。「歴史早わかり」のコラムで年表を検証してみた。記載されている25の史実のうち、Native American関連は次の3項目のみ。紀元前8,000年パレオ・インディアンが定住する 500年ダコタ、オジブウェ・インディアンが住みつく 1837年、先住インディアンとの協定が結ばれ、白人の入植が本格的に始まる・・・果たしてこれで全てであろうか？

詳述しよう。1837年ダコタ族は最初の条約を白人と結ぶ。彼らはミシシッピ東部の土地を全部譲渡することになる。1851年ララミー条約。締結ごとに土地を失い、小さな保留地に居住。失った土地の代償として物資と金銭を受け取ることになる。ところが、約束の行使に関わるトラブルで緊張が高まり、ダコタ族とミネソタ州政府の義勇軍が争う『ミネソタの反乱』に発展。だが、負けたダコタ側に対する軍事裁判は合法性に欠けるものであった。306人に首吊りが宣告される。時の大統領リンカーンが調停に乗り出したが、結局36人が死刑に。白人の「開拓」の歴史は「侵略」の歴史でもある。どうやら、二つのアメリカ史が存在するようだ。

O'hare International Airport 【ouhéə intənəʃ(ə)nəl éəpòərt】 **オヘア空港**

一年で91万回以上の離発着、7千万人以上の乗客が乗り降りする世界一多忙なオヘア空港はシカゴへの窓口。

8月15日(木)夕闇迫るジョン・ハンコックセンタービルの展望台へ。見渡す限りの大平原！黄色のナトリウム灯が縁取る街路が地平線のかなたへまっすぐ延び、ミシガン湖に浮かぶ遊覧船が幻想的。ビルは100階建て、高さは343m。同じくシカゴのシアーズタワーが110階、443mで世界第三位だが、ハンコックセンターの方が見晴らしは断然良い。ちなみにJR名古屋駅のセントラルタワーが地上53階、226mだ。

世界一の建物は、マレーシアのペトロナス・ツインタワーで452m。ところが、9月1日の新聞報道によれば、ロッテグループはソウル市内に高さ555mの超高層ビルを建設する計画を明らかにした。2006年に完成すれば、世界一の高さ。バベルの塔の昔から、人類は「神」の高みに至らんと夢を見続ける。高さへのあこがれ。わからないでもない。筆者は、モンブラン(4807m)やキリマンジャロ(5895m)に登頂したことがある。頂上からの眺望は言葉を超えて美しく、知らず身体がうち震えた。

Pac-Bell Park 【pæk bél páərk】 **パシフィック・ベル・パーク**

昨年同時多発テロを受け、シーズンの1週間中断を決定した大リーグ(MLB)。再開後は毎試合、必ず"God Bless America"が流れたと聞く。ワールドシリーズで始球式を行ったのは、何とブッシュ大統領。野球は国民的娯楽を標榜するだけに、政治的プロパガンダに利用されることも多々。

パックベル・パークはSan Francisco Giantsのホーム球場。チケットにはNo cans, glass bottles, alcoholの文字。この日も、「アメリカ国歌」の独唱からプレーボール。昨年のホームラン王Bonzの打棒はさえず、一人気を吐いたのが新庄。7th inning stretchで"Take me out to the Ball Game"を聞きつつ、Hot Dogを買いに出かける。意外にバンにソーセージが挟み込んであるだけ。どうするのかというと、セルフで自由に、レリッシュやオニオン、